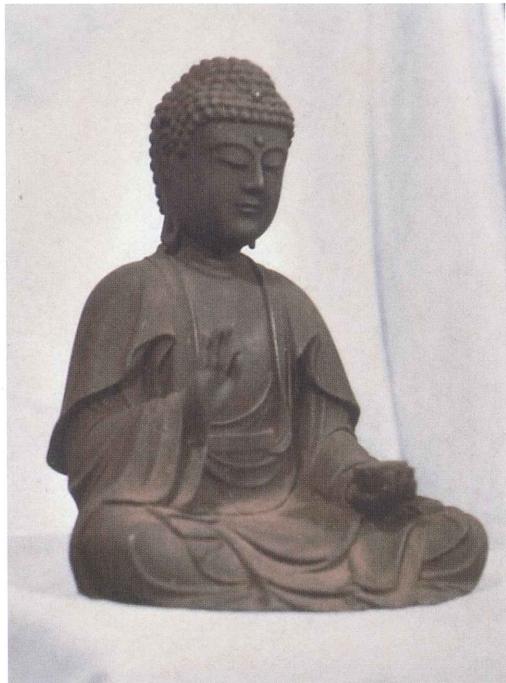


木造藥師如來坐像



登録年月日 昭和六〇年三月三〇日
種類 別有形文化財(彫刻)
名前 点名
所在地 在有地者等
等数 一
和田常仙寺 一
一
一
一

木造薬師如来坐像

像高二五・八cm、膝張一六・七cm、臂張一六・七cm、面長六・六cmの檜の檜の寄木造りで彫眼、肉髻珠、白毫は水晶を嵌入している。

光背は輪光で全高四四・七cm、横三一・五cm、光心部に白銅の鏡がはめてある。台座は全高二四・三cm、框張三〇cmの蓮華六重座で、彩色がほどこされている。

常仙寺の本尊であるこの像は江戸時代「寅薬師」の名で親しまれたものである。その由来は『江戸名所図会』によると、かつて三河国鳳来山の麓にあつたが、常仙寺開山の存吉がおかげに襲われた折、薬師が虎に化身して存吉の危機を救つた。存吉はこの恩にむくいるため寺建立の際に本尊として安置し、「寅薬師」と呼ばれるようになつたと伝えられている。本像は面長で眼を伏せ、小さく唇を結ぶ顔立ちで、鎌倉から室町時代にかけて流行した宋風の着衣形式を、切れのよい刀さばきで流暢に刻んである。細い頸が印象的である。やや纖細化のきらいはあるが、寺開創の慶長七年（一六〇二）頃の造立と思われる仏像である。

【文化財所在地】

